

第6回

PGI

ボートレースバトルチャンピオン

正月明けの“お年玉レース”

BBC トーナメント

ボートレース常滑 2025/1/23(木)▶26(日)

BBC TOURNAMENT

1/26(日)

最終日
決勝戦

12R あみだマシンで艇番決定

1/25(土)

3日目
準決勝戦

11・12両R 3着まで

1/24(金)

2日目
準々決勝戦

9～12R 3着まで

1/23(木)

初日
1回戦

5～12R 3着まで

BBC TOURNAMENT

昨年は関浩哉がチャンピオンベルトを腰に巻いた

表1 第6回ボートレースバトルチャンピオン
トーナメント出場予定選手

出場順位	登番	選手名	支部	勝率
前年覇者	4851	関 浩哉	群馬	7.39
SG競走 優勝者	4238	毒島 誠	群馬	7.96
	4418	茅原 悠紀	岡山	7.65
	4262	馬場 貴也	滋賀	7.45
	4494	河合 佑樹	静岡	7.34
	4362	土屋 智則	群馬	7.13
	5121	定松 勇樹	佐賀	7.03
第39回グランプリ 優勝者				
第39回グランプリシリーズ 優勝者				
PGI 優勝者	3960	菊地 孝平	静岡	7.30
	4502	遠藤 エミ	滋賀	7.19
第13回クイーンズクライマックス 優勝者				
GII 優勝者	4590	渡邊 優美	福岡	6.95
	4208	三浦 永理	静岡	7.45
15	4320	峰 竜太	佐賀	8.46
16	3941	池田 浩二	愛知	8.06
17	4503	上野真之介	佐賀	7.72
18	4719	上條 暢嵩	大阪	7.71
19	3721	守田 俊介	滋賀	7.60
20	4371	西山 貴浩	福岡	7.58
21	3854	吉川 元浩	兵庫	7.55
22	4205	山口 剛	広島	7.55
23	3415	松井 繁	大阪	7.54
24	4546	浜田亜理沙	埼玉	7.49
25	4500	山田 康二	佐賀	7.45
26	4504	前田 将太	福岡	7.35
27	3897	白井 英治	山口	7.30
28	4907	小池 修平	大阪	7.30
29	4445	宮地 元輝	佐賀	7.28
30	4686	丸野 一樹	滋賀	7.25
31	3590	濱野谷 憲吾	東京	7.25
32	4908	上田 龍星	大阪	7.24
33	4685	島村 隆幸	徳島	7.13
34	3737	上平 真二	広島	7.12
35	4166	吉田 拓郎	岡山	7.09
36	3952	中澤 和志	埼玉	7.09
37	4914	吉田 裕平	愛知	7.06
38	3942	寺田 祥	山口	7.01
39	3388	今垣光太郎	福井	7.01
40	4959	井上 忠政	大阪	7.00
41	4586	磯部 誠	愛知	7.00
42	4337	平本 真之	愛知	6.98
43	4627	藤原 菜希	東京	6.97
44	4123	細川 裕子	愛知	6.93
45	4932	新開 航	福岡	6.93
46	4524	深谷 知博	静岡	6.91
47	4296	岡崎 恭裕	福岡	6.89
48	4030	森高 一真	香川	6.88
予備1	4571	菅 章哉	徳島	6.87
予備2	3959	坪井 康晴	静岡	6.84
予備3	4850	野中 一平	愛知	6.82

(*成績対象期間: 2024/1/1 ~ 10/31)



CC制覇の河合佑樹は1回戦で1号艇で迎える

繰り上がりで出場が決まった森高一真

準決勝までは3着勝負

このレースは、通常開催とは異なるトーナメント制の勝ち上がり方式。もう5回開催してきたので、今回はごく簡単に紹介しておく。

参加するのは48選手で、初日は5〜12Rでトーナメント1回戦が8レース組まれている。そこで3着までに入った24選手が2日目の準々決勝へ。1回戦で1着だった選手8人は1・2号艇、2着だった選手は3・4号艇、3着だった選手には5・6号艇が配される。

2日目の準々決勝(9〜12R)でも、また3着までに入った12選手が3日目の準決勝へ。ここでも各レースの着順により、艇番が決まる。そして3日目の準決勝は11・12Rで行われ、やはり3着までの6選手が決勝戦へ進出する。

しかしながら決勝進出6選手の艇番は、後述するようにあみだマシンの完全抽選で決まる。なおトーナメント戦以外のレースの着順(例えば初日の1〜4R、

2日目の1〜8R、3日目の1〜10Rなどは、勝ち上がりには関係しない。

SG覇者が1号艇スタート

今回の出場選手は左の表1の通り。この記事は12月16日に書いていたので45名が決定しており、これに12月22日までのグランプリ及び同シリーズ、そして大晦日のクイーンズクライマックスの優勝者を加えた48名が参戦する。なおレース当日までには、まだ繰上出場が増えている可能性がある。

選出順位としては、前年優勝者がトップで、9レースあるSGの優勝者が勝率順で続く。そしてこの選出順位によって、トーナメント1回戦の艇番が決まる。今年は5位の河合佑樹までは、1回戦の1号艇が確定している。6位の土屋智則、7位の定松勇樹、そしてグランプリと同シリーズ優勝の4人のうち3人が1号艇へ。過去の例を見ても、1号艇でスタートできるメリットは非常に大きい。

決勝戦『影の主演』はあみだマシン!?

まだ3連勝ファイナリストに優勝なし…



①昨年の艇番抽選、これが噂のあみだマシン



②優出6選手が追加のケイを選んで…



③関浩哉が強運の1号艇を獲得!!

年毎に注目度もアップ

では過去5回の大会をチェックして、その傾向を探り出し、下の表2-1及び2も参照していただきたい。

なおこのタイトルは、第1回から3回までは12月に開催されていたが、第4回から新年1月の正月明けに変更された。これによって、選手にとっては年末のグランプリの賞金に加算されることになった。ファンの認知度も高まり、年毎に人気や売り上げが上昇している。

さて決勝戦は、それまでのトーナメント戦の成績には全く関係なく、準決勝で3着までに入った6選手によるあみだマシンで艇番が決定する。準決勝のすぐ後に行われるこの公開抽選は、当レースのハイライトであり、ネットでも中継されるので必見! 当然ながら、1号艇を引き当てた選手がグッと有利になる。

実際のところ、過去5回の決勝戦のうち4回はインが逃げて制している。小波乱となったのは、第3回で丸野一樹が3コースからまくり差しを決めた時だけだ。

ジンクスは破られるのか!?

しかしながら、決勝戦は一発勝負とはいえず、そこに進むためには3戦連続での3着以内キープが絶対条件である。ピンロクタイプよりも、道中堅実で着を落とさないタイプに有利といえる。

また究極の短期決戦なので、仕上がり早い選手向き。実戦で感

第3回は丸野一樹がまくり差しを決めて優勝



触を確かめて…といったことはできず、1回戦の時点でもう仕上がっていないと厳しい。何よりも調整の早さが求められる。

ところでこのレースには、いくつも不思議なジンクスが存在する。まず過去5大会において、準決勝で1着を獲った選手が1号艇を引いたことがなく、そして優勝したこともない。

さらにこれまで、トーナメントを3連勝してきた選手がのべ8人もいたが、その選手の誰もが優勝の美酒を味わっていない。昨年も松井繁と石野貴之が3連勝してきたが、そのジンクスを破れなかった。それどころか、トーナメントでは1着がなかった関と茅原悠紀がワンツーを決めている。

これらのジンクスが今年も破られるのか、それもまた注目のひとつだ。

表2-2 第5回の優勝戦結果 (2024/1/14 大村・12R)

着	艇番	選手名	トーナメント着順	進入	ST
1	①	関 浩哉	3 3 2	1	16
2	⑤	茅原 悠紀	2 3 3	5	14
3	③	松井 繁	1 1 1	3	14
4	②	平本 真之	3 2 3	2	17
5	⑥	馬場 貴也	1 3 2	6	24
6	④	石野 貴之	1 1 1	4	16

▼2連単 ①-⑤ 650円 4番人気 逃げ
▼3連単 ①-⑤-③ 1620円 7番人気

表2-1 第1~4回の優勝戦結果・上位入着選手

回	年	開催地	1着	進入	2着	進入	3着	進入	3連単	配当	決まり手
1	2019	平和島	田村 隆信	1	長田 頼宗	5	吉川 元浩	6	①⑤⑥	4740	逃げ
2	2020	若松	寺田 祥	1	吉川 元浩	3	田村 隆信	2	①③②	1600	逃げ
3	2021	鳴門	丸野 一樹	3	瓜生 正義	1	峰 竜太	5	③①⑤	6110	まくり差し
4	2023	びわこ	松井 繁	1	丸野 一樹	2	池田 浩二	6	①②⑥	1280	逃げ

BBC TOURNAMENT

表3 3連対率とイン以外での好成績が目立つ選手

順位	選手名	3連対率	イン以外での好成績
2	上野真之介	78.2	3コースで90.3
3	三浦 永理	76.5	6コースで68.0
4	浜田亜理沙	74.7	2コースで84.5
6	河合 佑樹	74.4	3コースで83.6
7	小池 修平	73.9	6コースで65.1
9	細川 裕子	73.3	4コースで82.1
10	上田 龍星	73.0	5コースで67.7
10	井上 忠政	73.0	2コースで80.4
13	上平 真二	71.9	4コースで72.0
15	吉田 裕平	71.1	3コースで81.1



センターで抜群の3連対率を誇る上野真之介

ここまで何度か繰り返してきたように、このトーナメントでは3着までに絡めば次のステージへ向ける。ということでのレース向きといえるのが、3連対率が高い選手、とくにイン以外で2・3着に粘れる選手ということになる。表3はその有力候補たちだ(集計期間は昨年1月から10月末まで)。中でも狙い目となるのは、2・4コースなら80%以上、5・6コースでは60%以上の3連対率を残

イン以外で2・3着に粘れる選手は？

ここまですべての選手だろ。

上野真之介は3コースでなんと90%を突破。ちなみに4コースでも80%を超えており、センターでの安定感は群を抜く。

細川裕子の4コース82%というのも出色。1着は7本だが、2着11本、3着14本と、2・3着狙いにはぴったりの存在といえる。

さらに三浦永理や小池修平が、大外6コースでも65%を超えるというのは驚異といえる。



細川裕子は4コースから粘り込む



大外でも警戒したい小池修平

常滑をドル箱にするのはこの選手

今シリーズの舞台となる常滑は、関東・東海では最もインの1着率が高く、全国平均も上回る(表4)。1マーク後方に防風ネットが設置されて、冬場でも水面が荒れることは少なくなった。

最近3年の勝率(出走回数30回以上)で上位にランクされる選手は、①馬場貴也、②池田浩二、③新開航、④山口剛、⑤吉川元浩、⑥関浩哉までが勝率8点オーバ。さらに⑦菊地孝平、⑧土屋智則、⑨磯部誠、⑩細川裕子・茅原悠紀(同率)と続き、どの選手も優勝率が高い。

22年10月のダービーでは、①馬場↓②山口↓③菊地と入線。山口は69周年、土屋智則は68周年の覇者。池田は常滑の大エースで、周年だけで3回制している。磯部に



今回の舞台となる常滑水面

表4 常滑・最近1年のイン1着率及び他場との比較

順位	場	勝率	1着率
1	徳山	8.37	63.2%
2	大村	8.34	63.0%
3	芦屋	8.25	60.7%
4	住之江	8.09	59.0%
5	尼崎	8.04	58.7%
6	下関	8.16	58.6%
6	常滑	8.11	58.6%
	全国平均	7.90	55.0%
24	戸田	7.17	42.6%

(集計期間: 2023/12/1 ~ 2024/11/30)



22年ダービー・優勝の馬場貴也と2着山口剛

も東海地区選優勝の実績がある。なお今回使用するエンジンは、11月19日からの使用で、このトーナメントは9節目。12月16日時点ではまだどの機も3節程度の使用歴しかないのが比較は難しいが、使い出し当初としては、3・5・6・22・37・47号機あたりの評判が良さそうだ。